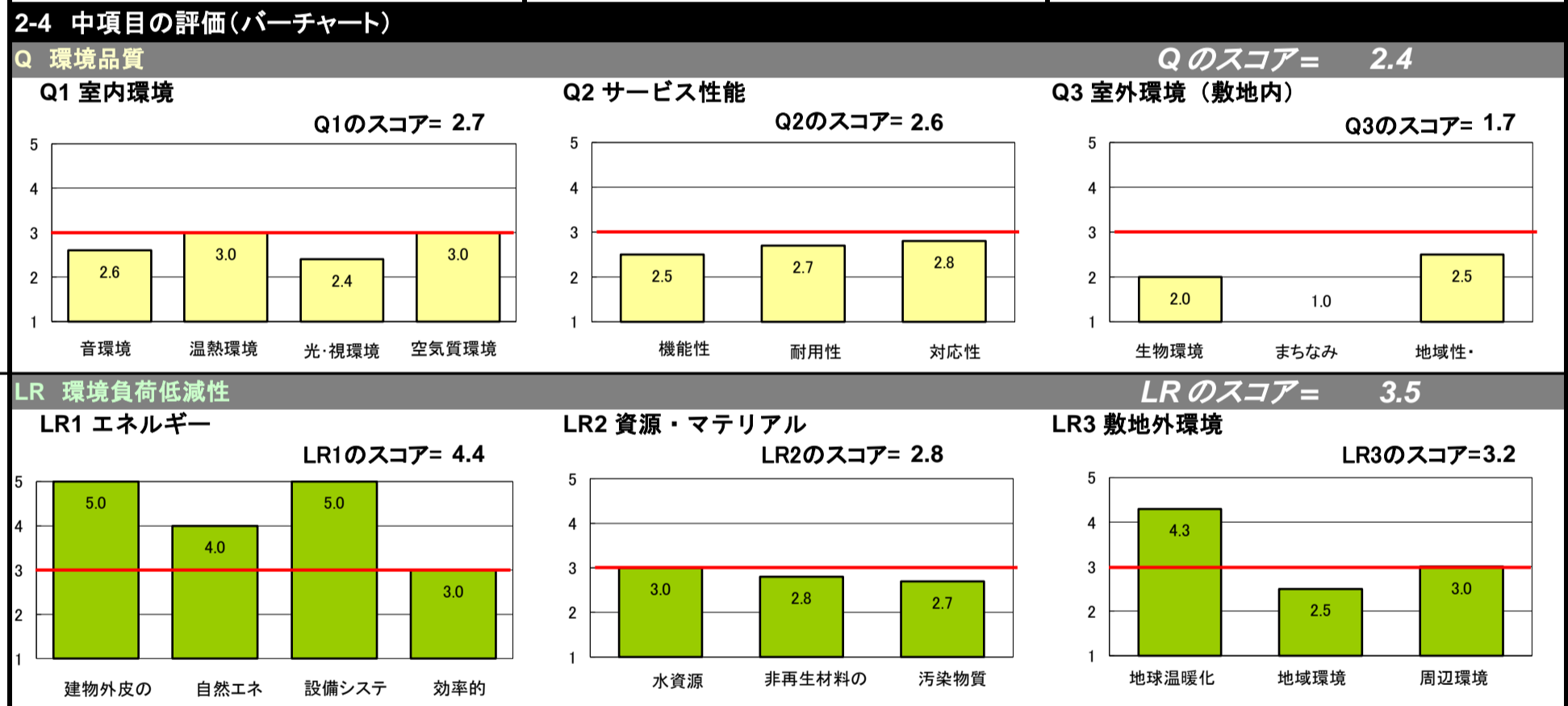
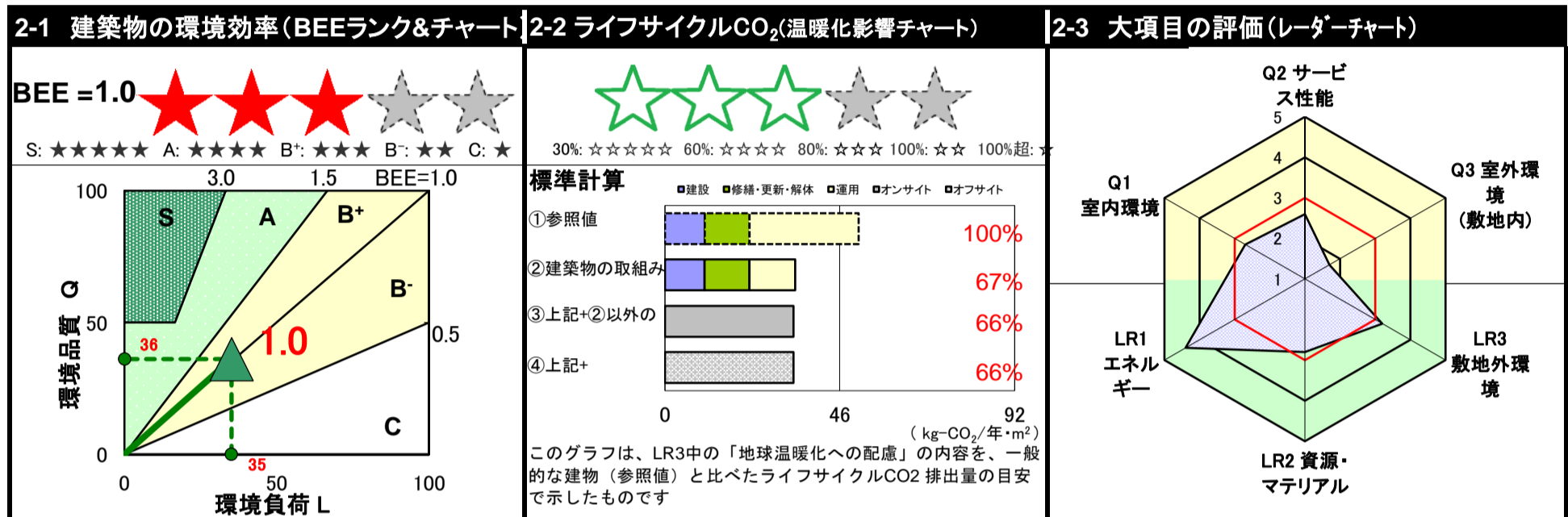


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	矢田こども園(仮称)	階数	地上2F
建設地	西尾上矢田北部土地区画整理地事業9街区1番(保留地), 9街区2番(仮換地)	構造	木造
用途地域	第二種低層住居専用地域	平均居住人員	331 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	7,232 m ²	作成者	石樽 繁樹
建築面積	1,644 m ²	確認日	2023年11月1日
延床面積	2,586 m ²	確認者	石樽 繁樹



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 4.3</p>	<p>③敷地内の緑化 2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 28.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用 2.7</p>	<p>④地域材の活用 2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> 構造材等へ三河産の桧・杉を使用</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
矢田こども園(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
敷地内は禁煙										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				0.2	2.8	0.29	-	-	-	2.8
3.1 空間のゆとり				0.3	2.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	2.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.59	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライトに採光取得	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.42	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.8	0.63	-	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減				-	-	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.26	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.22	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	仕上げ材に自然素材を利用	3.0	4.0	0.26	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.6	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	2.0	0.33	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.33	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率66%	-	4.3	0.33	-	-	-	4.3
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	車と人のゾーニングを考慮	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10
② 資源の有効活用			2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:28.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
			なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-
			構造材等へ三河産の桧・杉を使用

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 矢田こども園(仮称)

計画上の配慮事項	
総合	構造材・造作材に三河産材(杉・桧)を基本的に使用
Q1 室内環境	法規定に使用可能な所には杉材を使用、2F床材にはPBt21を二重、1F天井裏にグラスウールを充填して上階からの音に配慮した。
Q2 サービス性能	園庭の廻りに廊下を配置し、各教室が面しているようにした。
Q3 室外環境(敷地内)	庭園には温熱環境を配慮してできるだけ芝を植えるよう計画した。
LR1 エネルギー	開口部には庇・廊下を設け、夏の直射日光に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	持続可能性が証明された木材製品の使用
LR3 敷地外環境	木造建築とすることにより、LCCO2を低く抑えることができる。
その他	とくになし